

11/16 さつま町の産業祭 & 農業祭に出店

第4回さつま町産業祭 & JA農業祭

当町が友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町で「第4回さつま町産業祭 & JA農業祭」が開催されました。

さつま町の町制施行20周年記念も兼ねて開催されたイベントでは、「鹿児島県黒牛大特価セール」や「町内産新米大特価セール」のほか、当町の道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」が出店し、りんごやりんごジュース、にんにくを販売しました。

当日は約14,600人の来場者で賑わい、当町のブースにもオープンから多くの買い物客が訪れ、青森の旬の味を買い求めていました。



旬の新鮮なりんごを目当てに多くの買い物客が訪れました



顕彰状を受け取る受賞者

12/6 福祉の輪をつなげていく

令和7年度 鶴田町社会福祉大会

町社会福祉協議会による「令和7年度鶴田町社会福祉大会」が開かれ、町民や福祉関係者ら約170人が参加しました。

大会では、地域福祉の発展に貢献された25個人・6団体に顕彰状や感謝状が贈られました。受賞者を代表して永澤悦子さんが「今回の表彰を励みに、これからも微力ながら活動が続けていきたい」と謝辞を述べました。

このほか、福祉作文コンクールで最優秀賞を獲得した受賞者による作品朗読などが行われました。

12/9 籠いっぱいりんごを持って登校

鶴田小学校 りんご一籠運動

児童が家庭からりんごを持ち寄る「りんご一籠運動」が鶴田小学校で行われました。

町では毎年、地域の生産者からりんごを提供いただき、11月から2月頃まで町小中学校給食で地元のりんごを提供しています。

りんご入りの手籠を持って登校した児童たちは出迎えた先生たちに元気よくあいさつした後、玄関前に設置されたコンテナに一つ一つ丁寧に移し替えていました。この日は27人の児童が9箱分(180kg)のりんごを提供してくれました。



りんご籠を持って登校する児童たち



Vol.100 (筆: 帯川 匠)

今年の冬は昨年とは異なり雪が少なく、温かいので過ごしやすい日が続いていますね。「除雪が間に合わないほどの大雪だったら関東に帰ります」なんて冗談を役場の人に言ったら苦笑いをされました。

余談はさておき、みなさん2025年はどのような年でしたでしょうか？私は師匠に任された園地のスチューベン栽培と購入した空き家のリフォームに追われる年でした。リフォーム自体は協力隊の活動ではないのですが、鶴田町に定住するにあたり必要なものだったので、仕事時間外や休日で活動しました。ただ、ぶどうもリフォームを待ってはくれず、芽掻きしながら家を買ひ、枝を結束しながら床を張り替え、花が咲いたら壁を作り、実の形を整えながら作業場を修理し、収穫しながらペンキを塗る。そして今に至りますが、今年はいさ少し余裕をもって活動しようと思った今日この頃です。



地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を「地域おこし協力隊員」として町が委嘱。隊員には、地域おこし支援や地域協力活動を行っていただき、その地域への定住・定着を図る取組。



講演を行っている鈴木みゆき先生

12/14 健康づくりは子どもの頃から 令和7年度 健康づくり講演会

町国際交流会館で、國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授の鈴木みゆき氏を講師として招き、健康づくり講演会が行われました。

講演会では、「子どもと大人の健康づくり～早寝・早起き・朝ごはん～」と題し、現代の子どもを取り巻く状況と背景を踏まえた子どもの生活リズム改善策を紹介。睡眠による脳への影響は大きく、子どもの成長・発達に必要なホルモン分泌や意欲、感情のコントロールのほか、認知症にも関係していることを解説。子どもの頃から生活習慣を整えることがいかに大切かを講話されました。

12/23 車いす寄贈で観光支援 町観光協会・赤十字奉仕団 車いす寄贈

鶴田町観光協会（蒔苗愛子会長）と町赤十字奉仕団（宮本はる枝委員長）が、富士見湖パークを訪れる人々に利用してもらおうと、鶴の里振興公社に車いす1台を寄贈しました。

車いすは「鶴の舞橋秋まつり」のフリーマーケットの売り上げや募金などを使って購入。「ここにもあるじゃ」前でセレモニーが行われ、蒔苗会長と宮本委員長が、道の駅つるたの一戸駅長へ目録を贈呈しました。蒔苗会長は「4月には鶴の舞橋の改修工事が完了し、多くの人が訪れると思うので、その際に活用してほしい」とあいさつされました。



一戸駅長（左）に目録を手渡した蒔苗会長（中央）と宮本委員長



前田専務（左）から相川町長へ目録が手渡されました

12/25 地域活性化に役立てほしい 企業版ふるさと納税 寄附受納式・感謝状贈呈式

（株）マエダから、企業版ふるさと納税*でご寄附をいただきました。

町役場で行われた式では、前田大志代表取締役専務から寄付金100万円の目録が手渡されたほか、（株）マエダへ町から感謝状を贈呈いたしました。寄附金は同企業の選んだ「雇用の場をつくり、地域産業を支える人財を確保する事業」に活用されます。

※企業版ふるさと納税とは、国が認定した地方公共団体の地方創生事業に対し、企業が寄附を行った場合に法人関係税から税額控除する仕組み

地域おこし 協力隊通信

Vol.101（筆：葛西あゆみ）

今年もよろしくお願いいたします。選果→出荷の毎日で運動不足気味ですが、移住して知った「室内縄跳び」を実施中。千葉で育った私も小学生の頃は縄跳びをしましたが、室内で跳んだ覚えはなく、小石が足や顔に当たって痛い、風に縄がとられるなどの記憶があります。室内だとスムーズに跳べていいですね、雪深い地方に合った冬のスポーツだなあと思いました。

今年も元町弥生会にて弥生画のお手伝いをさせて頂きました。小さなスペースですが今年の収穫のお礼と、来年の五穀豊穡を願って一粒一粒祈りを込めて豆を貼り付けました。

最近、朝通学する子供に「手袋履いた？」と自然に聞くようになりましたが、はじめ「手袋を履く」という表現を聞いたときは耳を疑いました。頭の中では手袋を靴下のように履こうとする映像が浮かびましたが、今では「履く」があたりまえになりました。



▲弥生画の制作に取り組む葛西さん



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。